

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	市民公開講座
タイトル	命に向き合う時～胃ろうと延命～
日 時	平成 25 年 3 月 30 日 17 : 20～18 : 20
会 場	メインホール
作・出演	作・演出 大沢 紘一 出演 完熟「一期座」
解 説	医療法人ゆうの森たんぼぼクリニック 佐野 正浩
企画趣旨	<p>人は色々な病気になると、それが原因で食事が十分に摂れなくなってしまうことがあります。特に高齢者ではその傾向が顕著です。原因の病気を治すことができれば、また食事が摂れるようになります。しかし、病気は治せる病気だけではありません。医療者が力を尽くしても、残念ながら治しきることができず、結果として口から十分な量の食事が摂れない状態になってしまうことがあります。また、病気だけが原因ではなく、年齢を重ね体の衰弱が進んで、結果的として次第に、自然に、口から十分な食事が摂れなくなることもあります。いわゆる「老衰」による症状、徴候の一つです。</p> <p>そのような状況になったとき、実際の医療の現場ではどのような対応が行われているのでしょうか。一般的には一定の期間、状態の改善を目指し点滴の治療を行います。そしてその後状態の改善が見られない場合には、長期的な栄養の補給方法として、医療者より「胃瘻栄養を行うかどうか」の選択肢が示されることが多いのが実際です。</p> <p>医療者より「胃瘻栄養を行うかどうか」の選択肢が示された時、ご本人やご家族は限られた時間の中で考え、結論を出さなければなりません。</p> <p>胃瘻栄養は長期的に体の中に栄養を送る手段としては有効かつ比較的 안전한方法です。在宅医療の現場でも幅広く普及しています。「胃瘻栄養を行う選択肢」を多くの方が選び、現在わが国では約 40 万人の方が胃瘻栄養を行っていると言われています。</p> <p>一方で問題点もあります。胃瘻を造ることで当面の栄養を補給する手段は保障されますが、その方のすべての問題を解決できるわけではありません。また、医療者は「胃瘻栄養を行うかどうか」の選択肢を示しますが、どちらかといえば「胃瘻栄養をする」選択肢の提示に傾き、「胃瘻栄養をしない」選択肢についての提示は十分には行われていない場合も多いのではないかと思います。また、「胃瘻栄養を行うかどうか」の判断は、基本的に「ご本人やご家族が決める」ことが前提ですが、胃瘻造設が検討されるような状態の方は、なかなかご自分での判断や意思表示が難しくなっている場合が多く、実際の医療現場では</p>

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

「ご家族のみが判断し決める」ケースが非常に多いのではないかと考えます。つまり「胃瘻栄養を行うかどうか」という人生で大きな決断の中に、ご本人の意思が十分に反映できていない状況が生まれていると思います。

今回の市民公開講座では、この「病気や老衰で口から食事が食べられなくなったときにどうするか？胃瘻栄養を選択するかどうか？」というテーマを取り上げます。

対象者の多くが胃瘻栄養を行い、社会がその介護と医療を負担していく現在の社会システムを続けていくことで本当によいのか？胃瘻栄養の導入の過程に、本人の生き方や価値観は尊重されているのか？

誰もが自分の問題や家族の問題としていつかは必ず直面するであろうこのテーマについて、わかりやすく楽しい劇を観ていただき、皆さんと一緒に考えを深めていきたいと願います。